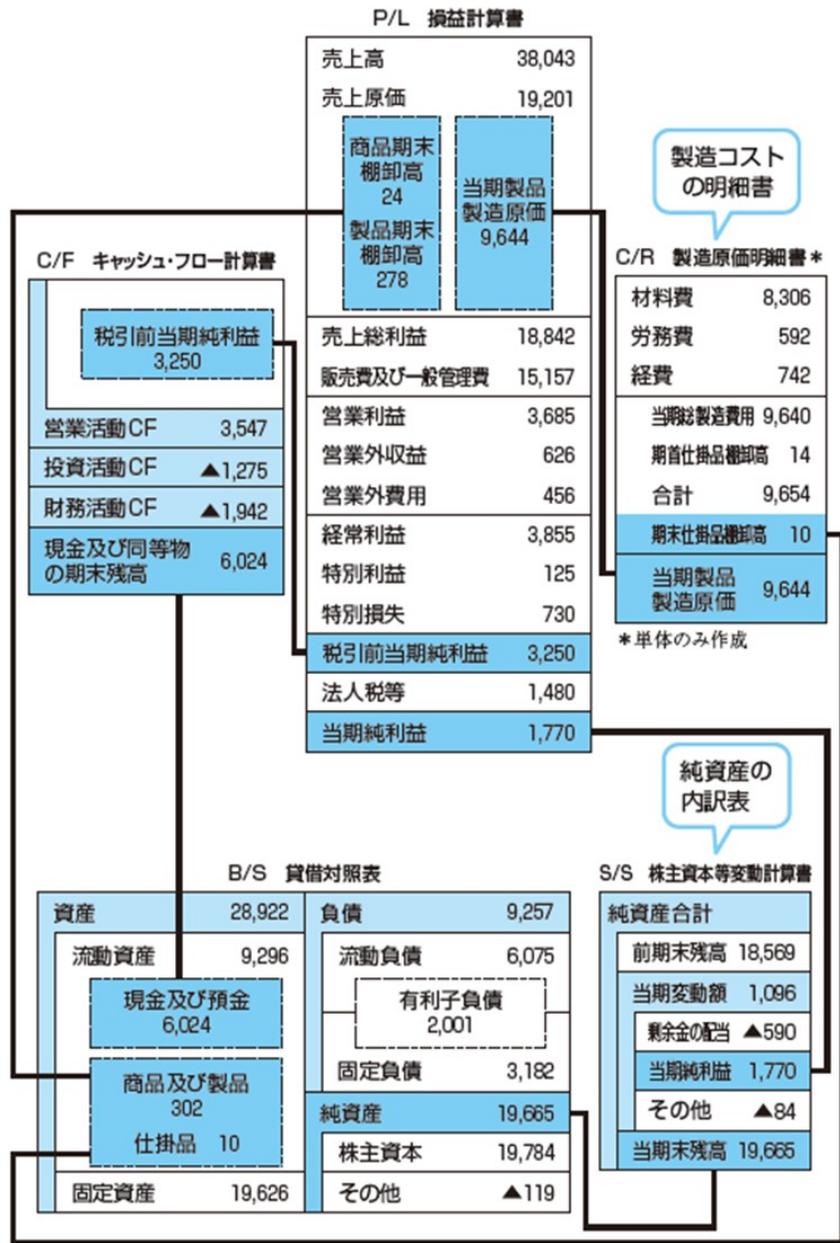


図表1 数字のつながりを意識する「会計直観力養成マップ」



超入門☆会計直観力

第一章 決算書の上手な「眺め方」

強

い会社には「儲けの公式」があります。驚くべきスピードで再生したJAL、話題のAKB48や青山フラワーマーケットの強さには、「儲けの公式」が隠されているのです。その秘密は、決算書をえぐれば見えてきます。逆に、会計が分らなければビジネスはできません。

本稿では、ビジネスに必要な会計や決算書の基本的知識をご紹介します。

決算書を読みこなすには「鳥の目」と「虫の目」の使い分けがポイントです。

そもそも「決算書は苦手」というのは、勘定科目という漢字ばかりの記号と数字の塊で表された決算書の構造が原因の一つにあります。「決算書のつながりが見えていない」、だから決算書を理解できず、苦手とするのです。

しかも、「数字が一人歩きする」というように、数字は非常にインパクトのある表現方法のひとつです。そうしたこともあって、数字であらわされた瞬間、枝葉末節にとらわれ、本当に必要なことを見落とすビジネスパーソンをよく見かけます。

鳥の目・虫の目・魚の目の使い分けがポイント

大

事なのは、決算書を広い大地や大空に見立て「鳥の目」で全体像をイメージし大所高所から問題点を見つけ、地を這う「虫の目」で必要に応じ細部に目を凝らし経営課題の本質を探ることです。

会計直観力を身につける第一歩は、「鳥の目」で決算書のすべての数字がリンクしていることを感じることになります。決算書の数字は一定のルールに従い関連性を持っています。この関連性を理解することが決算書を味方にする近道になります。

それでは、決算書を「鳥の目」で眺めてみましょう。

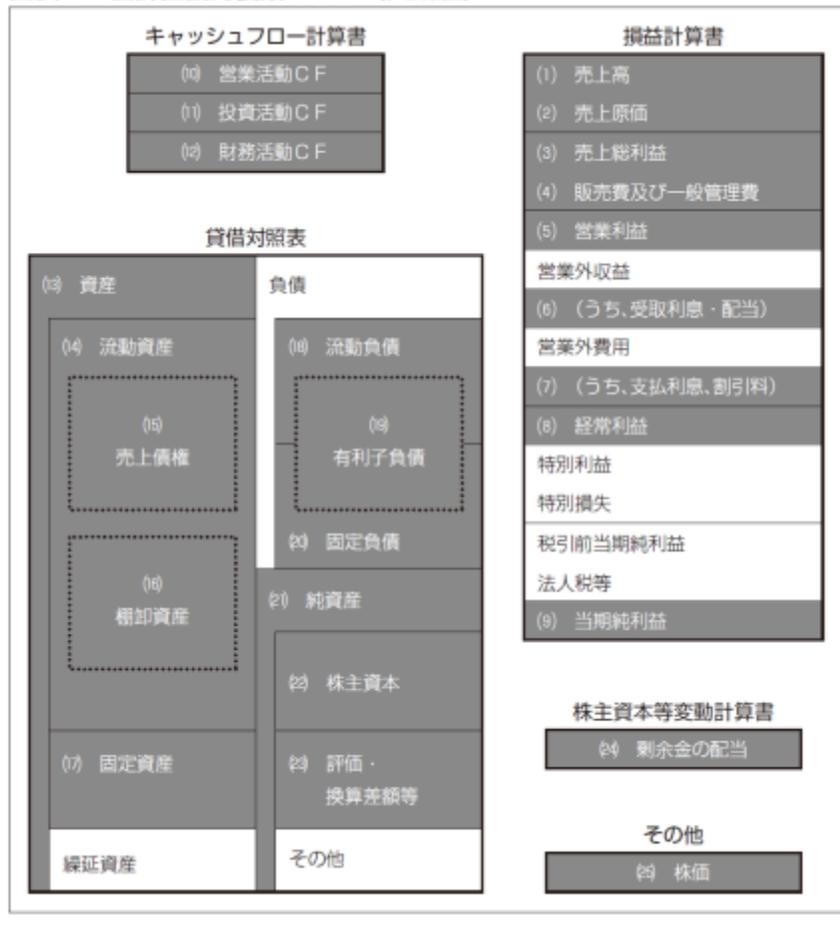
『会計直観力養成マップ』で決算書を攻略しよう

決

算書を見る際に意識して欲しいのが「数字のつながり」です。このつながりを体得するのに便利なツールが、『会計直観力養成マップ』。本物の決算書をグッとコンパクトにまとめたものです。

図表1をご覧ください。マップの真ん中にPL損益計算書という決算書があり、線が伸びているのが見えます。線の先には、同じ数字や漢字が並んでいます。たとえば、PLのお尻付近に「税引前当期純利益3,250」、また「税引前当期純利益3,250」、また同じものがCFキャッシュ・フロー計算書の頭にありますね。また、CFのお尻「現金及び同等物の期末残高6,024」は、BSの頭「現金及び預金6,024」と同じです。この他、PLの売上原価の内訳項目である「商品期末棚卸高24」と「製

図表2 会計直観力養成マップ (実践版)



品期末棚卸高278」の合計が、BS 貸借対照表「商品及び製品302」と一致しているのわかります。このように、決算書はすべてつながっていることを、まずは理解してください。ちなみに、こうした各社ごとに作成する決算書のことを「個別財務諸表」「単体の決算書」と呼びます。この個別・単体の決算書を集計したものが「連結財務諸表」、つまりグループの決算書という関係になります。

決算書のつながりを理解することが、決算書と仲良くなるポイントです。その上で『会計直観力養成マップ』をもとにいくつかの項目を押さえれば、ビジネスパーソンに必要なレベルで決算書を概観でき、全体的な財務体質を把握できるようになります。これがビジネスセンスを磨く近道です。他の数字は必要に応じて「虫の目」で眺めれば十分です。まずは、本物の決算書と向き合ってください。図表2の『会計直観力養成マップ(実践版)』に数字を書き入れる、この作業こそが決算書攻略法のはじまりです。決算書のつながりを理解できさえすれば、決算書はきつと皆さんの見方になってくれます。

そ もそも、決算書を読めない人がイメージできていません。ということは、決算書のつながりがイメージできれば、決算書や会計に対する理解を一段高いレベルに引き上げることが可能ということです。繰り返しますが、「鳥の目」で

そ

眺めれば十分です。

眺めれば十分です。

今回のキーワード

『鳥の目』と『虫の目』が決算書攻略のカギ。決算書はつながりを意識して理解する。



『四季報から始める企業分析 最強の会計力』(東洋経済新報社) 執筆陣の一人、価値創造機構理事長で公認会計士の村井直志らが講師を務めるビジネスセミナーを定期的に開催しています。ビジネスパーソンに必須の「会計力」「分析力」「監査力」を、ぜひ身につけて欲しいと思います。

価値創造機構 で検索！